

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立 78 年の歴史と伝統のもと、落ち着いた学習環境の中で生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、進路希望を実現できる学校をめざす

『君にしかできない夢が泉大津にある』をキャッチフレーズとし、将来の夢の実現に向けて取り組む生徒を育成します

- (1) 自らが抱いた「高い志」や「将来の夢」の実現に向けて、積極的に学力向上をめざす生徒
- (2) 高校生活の充実に向け、他の生徒と協調・協力しつつ、校内外の活動(学級活動・生徒会活動・部活動・ボランティア活動等)に積極的に取り組む生徒
- (3) 社会の一員として規範意識を持ち、積極的に社会と係わり、貢献できる生徒

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 「わかる授業」を土台に、「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりをめざす
 - ア 「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりの実践を進める。(学校全体の取組みとして実施する)
 - ・生徒の主体的取組を引き出す授業づくり(AL型授業)の実践と積み上げ
 - ・授業での ICT 活用力の向上。2020 年前期で電子黒板の全 HR 教室配置と教員半数以上の活用
 - イ 「総合的な探究の時間」「観点別評価」等を取組みを進める。(前者の委員会と後者のワーキンググループを立上、成果を校内共有)
 - 授業アンケートの平均点(H29=3.03/4点、H30=3.11)を2021年度までに3.15以上とする。
- (2) 進路目標を達成できる学力を3年間で育成する
 - ア 基礎学力の定着と進路実現をめざした補習・講習の充実を図り、外部検定試験への挑戦を促す
 - ・放課後や長期休業中の講習・補習の一層の充実
 - ・外部検定試験の挑戦と合格を強力にサポート
 - イ ビジネス情報コースの充実・発展
 - ・進路実現につながる授業内容の充実。2020年度以降のビジネス情報コースのあり方の検討を行う。
 - 学校教育自己診断(生徒)「生徒の講習満足度」(H29=63、H30=66%)を2021年度までに70%へ引き上げる。
 - 外部検定試験受験者と合格者を2021年度までに20%以上増やす。

2 「高い志」を育み、「将来の夢」を実現

- (1) 3年間を見通した志学、キャリア教育、人権教育を連動させた生徒育成プログラム(=トータルキャリアプラン)の実行
 - ア 生徒が自らの生き方を考え、よりよく課題を解決できる力を育成する「総合的な探究の時間」の取組みを進める。
- (2) 生徒一人ひとりが希望する進路を実現する為の組織的・計画的な進路指導
 - ア 学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、進路個人カードの有効活用を通じた生徒の進路実現。
 - イ 学年・教科・分掌間の連携を図り、講習や面接指導等、希望する進路に応じた支援の充実。
 - 3年生4月当初の進学希望先調査を達成できた生徒の割合(平成30年度97%)を毎年0.5%引き上げ、2021年度までに99%にする。
 - 就職内定率100%を維持する。

3 豊かな心の育成、自主性と規範意識の醸成

- (1) 生徒の規範意識を醸成し、個々の生徒への支援体制を強化する
 - ア 自主的に規律を守り、自らの行動を律する人をめざし、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
 - イ 全教員がカウンセリングマインドを持って生徒指導にあたる。
 - ウ 支援教育コーディネーターを中心に、生徒一人ひとりへの支援とサポート体制を充実する。
 - 学校教育自己診断(生徒)「生徒指導への満足度」H30 生徒=47(52)%を2021年度までに55%以上とする。
 - 自己診断(生徒・保護者)「教育相談への満足度」H30 生徒・保護者=61(56)%・81(82)%を2021年度までに生徒・保護者=65%・85%以上とする。
- (2) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己肯定感を育み、連帯意識や公共精神を培う
 - ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で他者と協働する力を育む。
 - 自己診断(生徒)「学校行事への満足度」H30 体育祭=82(78)%・文化祭=82(76)%を2021年度までに85%以上とする。
 - 部活動加入率(H29=45.8%)を2021年度までに50%以上とする。

4 安全・安心を土台にした総合的な学校力の向上

- (1) 生徒が安全・安心に学校生活を過ごせる環境づくりの充実
 - ア いじめ・差別をしないさせない意識の醸成。教育相談体制の充実を進め、保護者や関係機関と連携を強化する。
 - イ 保健・安全指導を徹底して、事故防止の取組みを進める。
 - ウ 大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化を図る。
 - エ 個人情報の適正管理と個人情報保護の精神を徹底する。
 - オ 教職員の多忙化解消に向け、業務の精選と校務運営の効率化を進める。
 - 自己診断(生徒)「人権に関する指導」(H30 肯定率=88(84)%)を2021年度までに88%以上を維持する。
 - 自己診断(教員)「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」H30 肯定率=55(64)%を2021年度までに70%以上とする。
- (2) 本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動の充実を図る
 - ア 中学校、保護者、教育関係者向けの情報発信と緊急時の情報発信の充実。
 - イ 生徒体験型の中・高・大(専)の交流・連携を進め、本校の魅力を発信する場とする。
 - 学校説明会参加者アンケートの肯定的評価(中学生)H30=90%を2021年度まで90%以上を維持する。
- (3) 次世代を担う教員の指導力の総合的な育成
 - ア 次世代の新たな学びを育成する校内研修の充実と校外研修への参加と校内共有。
 - イ 初任から10年目まで連続した校内育成体制の充実。
 - 学校教育自己診断(教員)「経験の少ない教職員の育成」H30 肯定率=78(91)%を2021年度90%以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【中期的目標の項目に沿って結果分析】</p> <p>1. 「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりなどAL型授業を取り入れる教員は増えたが、生徒評価は前年度とほぼ変わらない。更なる積み上げが必要。</p> <p>2. 生徒、保護者の評価とも大きな変化は見られないが、進路指導の充実に向け、保護者説明会、進路通信等の更なる充実を図りたい。</p> <p>3. 生徒指導に対する納得感は得られている。支援体制の整備と連携の構築が課題である。</p> <p>4. 本校の人権教育に関わる取組みを、保護者にも伝える機会が必要。</p>	<p>【第1回 6/11】「総合的な探究の時間」や「観点別評価」について、子どもたちがこれからの社会で必要となる力である。大変だが、しっかり進めてほしい。</p> <p>【第2回 12/5】学校評価で生徒の満足度が高いのは、生徒と先生の良い関係が学校の雰囲気表れているからであり、学校が生徒の居場所になっている。泉大津の強みであり、この強みを生かした学校づくりが大切である。</p> <p>【第3回 2/20】「総合的な探究の時間」の成果発表会では、生徒たちに着実に育みたい力を伸ばしおられると感じた。初年度で取組みには多大な負担があったことと思うが、21世紀に必要な力の育成をめざして取組みを進めてほしい。大学とも連携して生徒たちの学びの充実をはかってほしい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)主体的・対話的で深い学びを育む授業づくり ア主体的・対話的で深い学びの授業実践 イ「総合的な探究」「観点別評価」等の先取り (2)進路目標を達成できる学力の育成	(1)ア・生徒の主体的な取組みを引出す AL 型授業づくりの実践を積み上げる ・授業での ICT 活用力の向上(教職員のスキル向上) イ・課題解決力の育成をめざす「総合的な探究の時間」の試行と検証 ・観点別評価の調査研究と研修で共有する(WG と教務部) (2)ア・放課後や長期休業中の講習・補習の充実(進路指導部と教務部が連携して推進する) ・外部検定試験の挑戦を促し、合格をサポート (英検、漢検、数検(H30=76,31,12)の受験者の増加) イ ビジネス情報コースの今後あり方を検討 ・同コースの授業内容を進路実現につながる実践的なものとする	(1)ア・AL 型授業公開と協議 2 回 ・全 HR 教室に電子黒板設置(4 台) ・ICT 機器活用研修 2 回以上 ・教員の電子黒板の活用 50%以上 イ・1,2 年生で試行実施 ・全校研修 1 回 自己診断(生徒)「総合的な探究が人生に役立つ」新設定 65%以上 ・観点別評価 WG の成果を全体研修 1 回で共有 (2)ア・学校教育自己診断(生徒)「生徒の講習満足度」H30=66%以上 ・講習延べ参加増加 H30=50.7%以上 ・3 検定受験者 H30=119 の 10%増 イ・専門コースの今後結論を出す ・授業内容の改訂	(1) ア・ICT 機器活用研修 2 回() ・電子黒板全普通教室設置() ・電子黒板活用 45%() ・授業ア 3.03 3.11 3.09 イ・全校研修 2 回() 授業研究チーム(仮称)設置へ() (2) ア・総合的な探究肯定評価 62%() ・数理英で補習実施() ・講習延べ参加 50.7 58%() 講習満足度 66 70%() ・漢検 18 名、数検 0 名、英検 60 名 計 78 名受験() イ専門コース廃止を決定
2 「高い志」を育み、	(1)3 年間を見通した志学、キャリア教育、人権教育を連動させた生徒育成プログラム実行 (2)生徒一人ひとりが希望する進路を実現する為の組織的・計画的な進路指導	(1)ア・トータルキャリアプランの実行と新設「総合的な探究の時間」を運動し、生徒の課題解決能力を育て、自らの夢を描き、実現する力を育む (2)ア・学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、進路個人カードの有効活用を通じた生徒の進路実現 イ・学年・教科・分掌間の連携を図り、講習や面接指導等、希望する進路に応じた支援の充実で進路の実現を図る	(1)ア・1,2 年生「総合的な探究」の先行実施。検証と校内共有の研修実施 自己診断(生)「総合的な学習が役立つ」H30=70%以上 (2)ア自己診断(生)「進路個人カード活用」肯定 H30=1,2 年 51,52%以上 イ・3 年 4 月進路希望の実現 H30=97%以上、就職内定率 100%維持	(1)ア・専門学校、看護・保育体験等で地域人材活用() 役立つ 66.1% 73%() (2)ア・進路個人カード 1,2 年 51, 52% 58%() イ・進路希望 96.2%() ・内定 100%維持()一次 84.6%
3 豊かな心の育成、自主性と規範意識の醸成	(1)生徒の規範意識を醸成し、個々の生徒への支援体制を強化 (2)特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己肯定感を育み、連帯意識や公共精神を培う	(1)ア・身だしなみの意義を理解し、全校一致の目標(頭髪・制服等)を生徒と共有し、規範意識を醸成する ・問題行動等を生徒自らが考え、学校生活を落ちついた中で過ごせる支援の実施 ・自転車通学者のマナー指導での警察・外部と連携と体験的な交通安全講習会の実施 ・全生徒への「薬物乱用防止教室」の取組みと外部連携 (2)行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で他者と協働する力を育む ア・体育祭、文化祭を生徒会の自主的運営に委ねる ・生徒会・各クラス委員が連携し、教員とともに、「あいさつ運動」を継続展開し、あいさつのできる学校をめざす イ・生徒会が中心となり入学時からの取組みの充実を行い、部活動加入率を上げる ウ・生徒が自主的清掃活動に取り組むよう保健部が中心となって啓発活動を行う エ・さまざまなボランティア活動情報を提供し、参加生徒を募り参加させることで、自尊感情を高め、他者尊重の精神の涵養から社会に貢献できる人材育成を図る	(1)ア・年間遅刻件数の減少 H30=2487 件以下 ・体験的交通安全講習会 1 回以上 ・「薬物乱用防止教室」を AL 型の取組み実施 1 回以上 自己診断(生)「生徒指導への満足度」肯定 H30=47%以上 (2)ア 自己診断(生)「生徒会活動」肯定率 H30=42%+5 % 自己診断(生)「行事の満足度」 体育祭・文化祭 H30=82,82%以上 自己診断(生)「高校に入ってからあいさつするようになった」を H30=68%以上 イ・1 年生の部活動加入率 H30=45.7%+3 % ・小・中学校との交流を種目・回数で増やす H30=8 クラブ 50 回以上 ウ 自己診断(生)「清掃活動を積極的に行う」肯定 H30=71%以上 エ ボランティア参加生徒 H30=8 事業 53 名以上	(1)ア・遅刻 H30=2487 件 2566 件() イ・生活指導満足度 47% 54%() ウ・1 回実施() エ・全学年 1 回実施() (2)ア・生徒会活動 42% 57%() 体育祭・文化祭満足度 82,82% 81,84%() 学校行事の達成感高く、クラスや有志の取り組みが充実 挨拶 68 71%()微増で上向 朝の挨拶運動週間を 5 回実施 イ・部加入 45.7 55%() 1 年次の入部者上昇傾向 ・交 8 ク 50 回 8 ク 57 回() 陸上、女子バスケなど中学校と交流 ウ・清掃活動 71 74%() エ・ボランティア 8 事 53 名 6 事 79 名() 大津川ボランティアなどに積極参加
4 安全・安心を土台にした総合的な学校力の向上	(1)生徒が安全・安心に学校生活を過ごせる環境づくりの充実 (2)本校の教育活動の積極的発信と広報活動の充実 (3)次世代を担う教員の指導力の総合的な育成	(1)アいじめ・差別をしないさせない意識の醸成。教育相談体制の充実を進め、保護者や関係機関と連携を強化する。 1 自己診断(生徒)「気軽に相談に乗ってくれる」 2 自己診断(生徒)「学校はいじめに真剣に対応」 3 自己診断(生徒)「人権を学ぶ機会ある」 イ保健・安全指導を徹底して、事故防止の取組みを進める。 ・熱中・感染症、交通安全、薬乱、防災の指導の徹底と外部専門家と連携 ウ大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化、安否確認等の Blog、Eメール活用 工個人情報適正管理と個人情報保護の精神を徹底する。 オ学級減と教職員の多忙化解消に対応した分掌業務のスリム化を進める ・分掌業務精査と分掌統廃合を含む改革 ・教員の負担感の軽減と経験の少ない教員への支援 (2)ア 中学校、保護者、教育関係者向けの情報発信と緊急時の情報発信の充実 イ 体験型の中・高・大(専)等との交流・連携を進め、本校の魅力を発信する場とする (3)ア新たな学びを育成する校内研修の充実 ・「AL 型授業」「観点別評価」「総合的な探究」の研究と実践、校内での共有 ・新学習指導要領等に係る校外研修への参加と校内共有 イ初任から 10 年目までの校内育成体制の充実 ・センター研修を軸に研究授業と協議の実施	(1)ア・人権研修 1 回以上 1 肯定 H30=61%以上 2 いじめ対応 H30=68%以上 3 人権肯定(生徒)H30=88%以上 イ・各指導 1 回以上 ・外部専門家活用 2 件以上 ウ・年度内に生徒備蓄を検討 ・教員体制の確認と連絡方法確立 ・Blog、Eメール活用を試行 エ・研修 2 回以上 オ・業務内容の精選と分掌の統廃合 ・学校休業日(夏・冬期)とクラブ休業日 104 日の完全実施 ・時間外電話対応の軽減策 ・自己診断(教)「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」肯定 H30=55%以上 (2)ア・ブログの H30=180 回並 自己診断(生・保)「学校 HP をよく見る」26,39% 30,45% Eメール登録 73.1 80% イ・中学校出前の 2 回実施 ・多彩な学校交流 3 件以上 ・部活動交流 H30=8 クラブ 50 回以上 学校説明会アンケート参加中学生の肯定意見 H30=90%以上 (3)ア・ワーキンググループの成果発表各 1 回以上 ・校外研修等の成果報告 3 回以上 イ・年 3 回の授業と協議の実施	(1)ア・相談肯定 61% 60%() ・いじめ対応 68% 72%() ・人権肯定 88% 90%() イ・外部専門家活用 3 件実施() 泉大津警察・消防署の講習など ウ・ブロック塀をフェンスに置換 ・次年度生徒備蓄完了予定() ・Eメール 73% 85%() エ・研修 1 回() オ・分掌の統廃合検討中() ・クラブ休業日実施() ・Eメールによる欠席連絡 ・各種会議 55% 51%() を活用、時間外電話軽減 (2)ア・ブログ 180 回 200 回() ・HP 閲覧 30% 25%() イ 泉大津市連中高連携協議会による出前授業、学校交流を実施 ・中学校出前授業 2 回() ・学校交流 3 回() ・交 8 ク 50 回 8 ク 57 回() 陸上、女子バスケなど中学校と交流 ・学校説明会 90% 93%() (3)ア・WG 成果発表 1 回() 探究委員会、観点別評価 WG からの校内研修推進 ・校外研修成果報告 1 回() ・研究授業 4 回実施()